



中門

本堂客殿建設進捗状況

令和六年九月中門（四脚門）が完成しました。本堂の屋根に合わせ銅板葺です。寺葬儀を行う都合で車の通行ができるようにしてあります。



客殿内部

中央の仏像は胎藏界の大日如来です

寿楽院本堂客殿建設最新情報

建設事業も最終段階になり、残すは記念碑です。

十三仏の事典

三十三回忌の虚空蔵菩薩

虚空蔵菩薩とは、虚空（天空・法界）のような蔵をもった仏さまということです。蔵とは知恵と功德のことであって、それは広大ではかりしれないほどのものであるということです。密教での虚空蔵さまのお姿は、右手に知恵を表わす剣を持ち、左手には福德を表わす蓮華を、その上に宝珠をのせて持っています。十三仏では、頭に宝冠を、右手に蓮華を持っておられるお姿です。亡き人は、とうとう十三仏目の虚空蔵さまの導きをいただくまでに、三十三年かかって到達したことにたります。とても永い修行の期間であったと思います。しかし、それもすぎてしまうと、アツという間のことです。それにしても、この間の年月には大きいものがあります。三十三回忌の法事ができるということ



と、それだけに尊いことです。三十三回忌は「法事のしめくくり」ということになり、す。仏教には悉有一切なる素質があるということです。その素質とは、虚空蔵のように無限大であるということです。虚空蔵さまは、その無限大に導いていただく仏さまです。仏教の世界には、限度・程度という考えはありません。努力精進していくならば、無限大に能力を拡大していくことができるのだとされています。亡き人が、虚空蔵さまの導きによって菩薩の道に入り、無限の軌道に乗ったことになり、私たちがまた、安易なあきらめに屈せず、仏さまの導きを信じ、長期的な展望に立って、不可能を可能にしていく心を養っていくようにすべきです。絶えることのない精進こそが、再び大日如来の導きによって、五十回忌、さらに五十回忌ごとの年回（ご遠忌）へと導かれていくことになり、す。